

岐阜と笠松を結ぶ「鮎鯨ウォーク」

歴史が薫る9キロの道を300人が完歩



笠松問屋場跡(高嶋邸)にて高嶋久右衛門さんと鮎鯨荷を運んだ小学生たち

江戸時代、将軍に献上する「鮎鯨」を運んだことから名付けられた「鮎鯨街道」。その街道である岐阜市から笠松町までの約9kmの道のりを歩く「鮎鯨街道ウォーク」が秋晴れの9月23日、行われました。

笠松エリアは「鮎鯨街道ウォーク笠松実行委員会」の呼びかけで参加した笠松小、松枝小、下羽栗小の6年生13人が鮎鯨荷を運びました。

江戸時代に「舟」で愛知県側に渡った「笠松みなと公園」に到着すると、歩き終えた皆さんには手作りの「鮎雑炊」が振る舞われました。

園児と一緒に楽しいひととき

町老人レクリエーション大会

町老人レクリエーション大会が10月20日、町民体育館で60歳以上の元気なお年寄り570人が参加して行われました。

この大会は、高齢者の健康維持と生きがいを高め、高齢者福祉の増進のために毎年行われています。

競技は、保育所の園児も一緒になって「おおぐちパックン」や「輪投げ」など11種目が行われ、参加者全員が競技をとおして、心地よい汗を流し、心から楽しみました。

園児たちも元気よくお遊戯や組体操を披露し、参加した皆さんに元気を与えてくれました。



ホールを目指し、ペタンクボールを投げる参加者

かさまつの民話『昔むかし』

米野の戦い④

勘平長資が、馬を引きよせ、敵陣に向おうとすると、中に立派な身なりの武将が馬にまたがっているのが目に映った。「おお、これこそ、自分の戦うべき相手だ」と心に決め、その前におどりでた。

「お見受け申すは、よほどの武将と見た。部下より先に立ち攻めくる姿は、敵ながらあっぱれ！一槍合わせとう存ずる。われは、勘平長資、勝負いたせ。」

と槍をかまえた。相手は池田備中守長能（東軍の武将、池田輝政の弟）という名にきこえたさむらいであった。

「よし、われが相手いたすぞ。かかってくるがよい。さあ。」

相手は身をかまえた。勘平は、長槍をかまえて、つきすすんだ。ひとふり、ふたふりもみ

あううちに、相手方の家来は、勘平のたゆまぬ力におどろき、武将の手だすけに入ろうとした。長能は

「おれにまかせろ。相手はてごわい武士じゃが、わしが負けたとあつては、名がすたる。手だしするな。」

手下をたしなめた。

勘平のするどい槍元をしかと受けとめ、相手とにらみあいがつづいた。勘平の槍が勝つか、長能の太刀が勝つか、双方かたずをのむ一戦であった。若者

と武将のちがいこそあれ、共に気迫ときたえあげた腕には

自信があった。米野一帯にひろがる戦いの中でも、これは、一進一退のすさまじい戦いであった。

(つづく)



飯沼勘平長資(左)と池田備中守長能(右)が戦っている様子